



今夏は大雨が続き、長野県内でも土砂崩れ等の災害が起こっていると聞きました。ミラノ近郊でも7月下旬から雨が多くなり(うち数回は深夜の雷雨)、公園の芝生も庭の雑草もグングン伸びます。日本より湿気が少ないため朝晩は涼しさも感じますが、雨により最高気温が20°Cまで下がるとさすがに肌寒いです。街でダウンジャケットを着ている人を発見しました。

■Buone Vacanze!

いよいよバカンスが本格化しました。朝の通勤時間帯の人出は明らかに少なくなり、近所のランニングコースを走るランナー・毎朝の犬の散歩ですれ違う人達もパツパツといなくなりました。開店時間を過ぎてもCaffetteria, Tabacchiも閉まったままです。よく行くパン屋も8月9日~3週間のお休みに入るらしく、「CHIUSO PER FERIE」の看板がレジ横に置いてありました。噂通り街が静かになり、一気に空気が変わりました。



■ワクチン接種とグリーンパスの提示義務

ワクチン接種の予約状況を見ると、日曜日の夕方のみ可。7月末の次は8月末というスケジュールです。場所は自宅から電車とバスで1時間の会場。行ったことの無い町ですので、一週間前に念のための場所確認を済ませておきました。



当日は近所に住む心優しい同僚が車に乗せて行ってくれ、受付ではイタリア語の通訳までしてくれました。予定時間より 30 分前の到着でしたが、来た順に対応してくれるところはイタリアのフレキシブルな対応に感謝です。

整理券を取って順番を待ち、医師 2 人へ事前にダウンロード・記入した問診表を提出しました。イタリア語も英語も OK の医師と受付で聞いてはいたものの、案の定イタリア語での対応でした。文明の利器・Google 翻訳を使うため選択言語を Giapponese と告げると、「Olimpiadi di TOKYO, Medaglia d'oro cento metri!!」と大興奮！



ちょうど、陸上男子でイタリアが金メダルを獲得した直後だったのです。

自宅を出発する直前に観ていた生放送のチャンネルでも

「オロ、オロ～！オロ、オロ～！マンマミーア!!(oro, oro, oro, oro～!!!! Mamma mia!!!!)」と大騒ぎになっていたのを思い出しました。

そんなことを話してからいざ注射、それなりに痛かったです。

その後 15 分ほど外で待ち、雨の降っている野原を接種済の人々が無言で眺めています。

私は席に座らずブラブラしていたので、
係の人に座るように注意されてしまいました



ここロンバルディア州はワクチンの種類を自分では選べないらしく、接種後に医師から渡される QR コード入りの接種証明書を見ることでワクチンの種類が分かります。私は接種前に医師からモデルナ社製と聞くことができました。

また、8 月 6 日以降は美術館や映画館等を利用・飲食店内での飲食をする場合、グリーンパス(ワクチンの種類や接種日、コロナの履歴などの情報が含まれた電子証明)又は 48 時間以内に検査した陰性証明結果を提示しなければなりません。法令で義務化されたので、違反者には罰金(400～1000 ユーロ)が科せられます。接種から 2 週間後にグリーンパスアップの QR コードが有効になり、それまでは行動が制限されることになります。

その施行日初日。よく行く近所のピッツェリアでテイクアウトをした際、レジ横にタブレットが置いてあるのを見つけました。まだグリーンパス手続中であることをオーナーに話し、言われるとおりに接種証明の QR コードを試しにかざしてみると・・・「**Attenzione!**」と赤字で画面に表示されました。その段階ではグリーンパス未保持者でないことが明らかになり、この場合の店内飲食は NG です。

ということで・・・バカンスに突入したものの、
文化的施設・美術館行きは延期になってしまいました。



↑ Bologna での注意書き

■HIROSHIMA, LA COMMEMORAZIONE

東京オリンピック中に迎える 8 月 6 日。戦争から既に 76 年が経ち、戦争を知らない世代が増えてきました。年々戦争への関心が薄れ、反して映画やアニメ、ゲームといった架空の世界で使われる出来事のように感じているような気さえします。

オリンピックは平和の祭典であり、唯一の被爆国である開催国が率先して核禁止を訴えていくのが日本の役割のようにも感じていました。同日のイタリアの朝のニュースでも「HIROSHIMA, LA COMMEMORAZIONE」として、平和記念公園で参列されている方々の様子や当時の原爆ドームの映像も紹介されていました。

ヨーロッパで「FUKUSHIMA」という地名が知られているのは、チェルノブイリの一件があるからだと聞きました。イタリアは輸入により隣国からエネルギーを得ていますが、その輸入国の 1 つであるフランスで原子力発電事故が起こった場合、風向きによるイタリアへの被害は想像に難くありません。

映画化された東野圭吾さんの作品で原発テロ事件のものがありません。その映画の中で、原発近隣に住む(設定)人の一言「このエネルギーで都会の人は歯ブラシを使っている」という様な内容のセリフが現代の生活とリスクを表していたのが印象的でした。

地熱や太陽光での発電は欧州各国が大きく伸ばしていますが、政治的な背景を抜きにしても CO2 問題の観点等から「核、反対!!」と単に言い切れない難しさもあるようです。

2021 年 8 月 9 日